

令和7年度

自己点検・評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver.5.0 準拠版)

令和8年5月

ヤマザキ動物専門学校

I 教育目標と本年度の重点目標の評価

○学校の教育理念・目標

学校法人ヤマザキ学園は、「生命への畏敬」と「職業人としての自立」を建学の精神に掲げ、動物看護教育のパイオニアとして創立 57 周年を迎えた。本校は日本で初めて動物看護教育の専修学校認可を受け、現在のヤマザキ動物専門学校に至る。学園創立以来の目標であった、「愛玩動物看護師法」が令和元（2019）年に制定され、令和 5（2023）年 2 月 19 日に愛玩動物看護師の第 1 回国家試験が実施され、令和 3（2021）年に開講した愛玩動物看護学科は、令和 6（2024）年 2 月 18 日に行われた第 2 回国家試験より受験を開始した。

1. 建学の精神

「生命への畏敬」、「職業人としての自立」を建学の精神に掲げ、人間は、地球上に存在する多種多様な生命に対し、尊敬の心を持ち、生態系の摂理の中で生かされている生命であるという思想のもと、共に生きるものに限りない愛を注ぐ。この精神を通して、調和のとれた平和な社会の建設に寄与する豊かな人間性と、幅広い視野を持つ人間教育を行う。

2. 教育理念

建学の精神のもと「生命（いのち）を生きる」を教育理念とする。この教育理念は、「動物愛護の精神のもと、人間が自分たちよりも小さな弱い立場の生命に思いやりの心を忘れず、動物たちと豊かに共生すること」である。これは本校の基本理念であり、常にこの基本理念を基盤に教育を行い、本校へ入学を希望するすべての生徒に対しても、この基本理念に共感することを求めている。

3. 目的

ヤマザキ動物専門学校は、教育基本法（平成 18 年法律第 120 号）及び学校教育法（昭和 22 年）法律第 26 号）に基づき、動物の保護及び管理に必要とされる知識、技術並びに教養を修得するために専修学校を設立し、優れた人材を養成することを目的とする。

本校は動物管理専門課程（文化・教養）、愛玩動物看護学科（3 年制、入学定員 120 人）を有する。

4. 3 つのポリシー

(1) アドミッション・ポリシー

- ①本校の建学の精神及び教育理念に共感する者。
- ②動物に深い理解と愛情を持ち、人と動物の豊かな共生社会を目指す者。
- ③動物看護学に興味を持ち、専門知識と技術を学ぶための基礎学力を有する者。
- ④愛玩動物看護師を目指し、広い視野に立ち、コミュニケーションを大切にする者。

(2) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを教育課程に反映させるため教養教育科目、専門基礎科目、専門科目（選択科目を含む）の 3 科目群からカリキュラムを構成する。

- ①教養教育科目では、愛玩動物看護師に必要な教養を俯瞰的に学び、社会的自立を図るために必要な能力を養う。
- ②専門基礎科目では、動物看護学の基礎的知識と技術を学び、愛玩動物看護師に必要な能力を養う。
- ③専門科目では、動物愛護・福祉に基づいた動物看護、検査、グルーミング、トレーニング等の専門的知識と技術を養う。

(3) ディプロマ・ポリシー

修業年限以上在籍し、所定の時間数を修了した学生に対して、卒業を認定し、動物管理専門課程の専門士（文化・教養専門課程）の称号を授与する。

- ①本校の建学の精神及び教育理念を理解し、人と動物の架け橋となる愛玩動物看護師としての使命感を有する。
- ②動物看護学の基礎的・応用的知識と技術を身につけている。
- ③人と動物の共生社会において必要なコミュニケーション能力を身につけている。
- ④動物愛護・福祉に基づいた動物の適正飼養の普及及び公衆衛生に貢献する能力を身につけている。

教育理念・目的育成人材像は、明文化・文章化されており、学校に関わる全ての人（学生・保護者・関連業界・入学対象者・高等学校・教職員等）について、ホームページ、入学案内書、学生募集要項、履修ガイド&シラバス、Information and Guide（学生便覧）、学年便りにて周知している。

5. 動物業界のニーズに合った人材の育成

愛玩動物看護学科では、愛玩動物看護師に必要な教養を俯瞰的に学び、社会的自立を図るために必要な能力を養う。愛玩動物看護師国家試験受験に必要な科目 1,800 時間に加え、本校独自のカリキュラム 960 時間を加えることで、動物看護・グルーミング・トレーニングを総合的に学ぶことができる。さらに、豊富な企業実習・学内実習を実施することで、技術の修得に努めた。

愛玩動物看護師国家資格に対応するため、愛玩動物看護師法第 31 条に準拠したカリキュラムを実施した。

愛玩動物看護師は、獣医師の指示のもと、新たな業務を担い、チーム動物医療の一員としてより重要な存在となる。本校では愛玩動物看護師国家試験の合格を目指すと共に、3 年間で動物看護を中心に、グルーミング、犬のトレーニング、動物の適正飼養等を総合的に学ぶことで、動物看護専門の職業人としての豊かな人間性と幅広い視野を持った人材育成をしている。そのため、国家資格である愛玩動物看護師の他、NPO 法人日本動物衛生看護師協会認定 Animal Health Technician（動物衛生健康技術師）、Dog Grooming Specialist（犬の美容師）、Cat Grooming Specialist（猫の美容師）、Companion Dog Trainer（家庭犬のしつけ訓練士）、Canine Rehabilitation Therapist—Basic—（犬の理学療法士〈基礎〉）の 5 つの資格の取得を目標としている。

6. 職業実践専門課程

職業実践専門課程は専修学校の専門課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うため、文部科学大臣が認定し職業教育の水準の維持向上を図ることを目的としている。本校は愛玩動物看護学科を職業実践専門課程として申請し、文部科学大臣より令和7年3月24日に認定を受けた。

○令和7年度重点目標

1. 学生の受け入れ

(1) 入学者の受け入れ方針と方法

アドミッション・ポリシーに基づき、建学の精神及び教育理念に共感し、人と動物の架け橋になる者を受け入れる。総合型選抜試験、学校推薦型選抜試験（指定校制・公募制）、一般選抜試験、社会人選抜試験による。

(2) 学修支援

入学前教育として、全ての選抜試験の合格者を対象に、入学前ドリルを配布し高校までの学修の復習を行い、入学後提出させ添削を行う。これにより入学前の学修意欲の向上ならびに家庭学習の定着を図る。

また、在校生を対象に愛玩動物看護師国家試験の合格率向上のため、段階的な対策を講じていく。1年次は基礎学力の定着を目標とし、授業内小テストや模擬試験を実施し、不得意分野を特定し克服できるようにする。2年次では専門分野の学修を深めるとともに、定期的な模擬試験を実施し、1年次に引き続き不得意分野の克服に努める。3年次では定期的な模擬試験の実施の他、対策講座の設置やオンラインでの教材提供、記憶定着アプリケーションソフトウェアの導入など、学内だけでなく家庭での学習指導体制を整える。また試験対策の掲示板を設置し、全学年へ情報を提供すると共に、アッセンブリーアワーにて動物関連の資格と現状について説明の時間を設け、情報発信を行う。

(3) 特待生制度・奨学金制度

本校では、教育・学生生活のサポートとして独自の特待生制度及び山崎良壽記念奨学金制度を設け、成績優秀者や災害被災学生等に奨学金を給付する。

(4) キャリア支援

きめ細かい学生支援をモットーとして、多様化する学生の気質や職業観に対応できるように学生の立場に立って相談・指導を実施する。全卒業生に対して80%以上の就職、希望者に対しては95%以上の就職実績を目標とし、達成し続けている。これを継続させるために、1年次からの動物看護総合実習において就職活動前に併設施設や学外の動物病院等で実践的な研修を行うことで、本人が自分に適した職に就けるよう指導する。また、キャリア支援センターによる正科目「キャリアマネジメント」をより一層強化する。さらに、One Drive等を活用し、求人票保存・学生配信の合理化に努める。加えて、業界研究・企業研究ができ

るよう動物病院や動物関連企業の採用担当者を学内に招き、低学年からでも参加できる動物病院・企業研究合同説明会を定期的に実施する。

(5) 教育環境の再整備

年次計画で行っている渋谷キャンパス2号館の学生トイレの改修等を行い、教育環境の向上を図る。

2. 教育課程

(1) カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーに沿った教育課程

動物愛護の精神に則り、動物看護を中心に、動物美容、トレーニングの知識と技術を身に付けた付加価値の高い人材を養成する。

カリキュラム・ポリシーは、次のとおりである。

ディプロマ・ポリシーを教育課程に反映させるため教養教育科目、専門基礎科目、専門科目（選択科目を含む）の3科目群からカリキュラムを構成する。

- ①教養教育科目では、愛玩動物看護師に必要な教養を俯瞰的に学び、社会的自立を図るために必要な能力を養う。
- ②専門基礎科目では、動物看護学の基礎的知識と技術を学び、愛玩動物看護師に必要な能力を養う。
- ③専門科目では、動物愛護・福祉に基づいた動物看護、検査、グルーミング、トレーニング等の専門的知識と技術を養うとともに、学内外の動物診療施設での実習で実践力を身につけ、動物看護師に必要とされる専門性を高め、即戦力となる技術を修得する。

愛玩動物看護学科では「愛玩動物看護師養成所指定規則第四条に定められた教育内容」に本校独自の科目を加えたカリキュラムを採用している。

また愛玩動物看護師養成所指定規則第四条に定められた科目を専門教育科目（専門基礎科目・専門科目）として対応しており、本校独自科目として教養教育科目、専門科目を配している。動物看護を中心に「コンパニオンアニマルケア実習」及び「ドッグトレーニング実習」も配しており、総合的な教育を行うカリキュラムが整備されている。また、事実上の就職対策や愛玩動物看護師国家試験対策である「キャリアマネジメント」及び「動物看護学総合」を実施し、就職内定率及び国家試験合格率の向上に努める。

ディプロマ・ポリシーは次のとおりである。

修業年限以上在籍し、所定の時間数を修了した学生に対して、卒業を認定し、動物管理専門課程の専門士（文化・教養専門課程）の称号を授与する。

- ①本校の建学の精神及び教育理念を理解し、人と動物の架け橋となる愛玩動物看護師としての使命感を有する。
- ②動物看護学の基礎的・応用的知識と技術を身につけている。
- ③人と動物の共生社会において必要なコミュニケーション能力を身につけている。

- ④動物愛護・福祉に基づいた動物の適正飼養の普及及び公衆衛生に貢献する能力を身につけている。

また、教育課程編成委員会を年2回以上開催し、同委員会において聴取した意見を教務委員会で検討の上、校長が教育課程に反映する。その結果を同委員会に報告するというPDCAのサイクルを構築し、教育課程の充実を図る。

(2)カリキュラム

「愛玩動物看護師養成所指定規則第四条に定められた教育内容」に本校独自の科目を加えたカリキュラムを採用している。

(3)成績評価と授業評価

成績評価については、GPA (Grade Point Average) による厳格な成績管理を実施し、修学度等の調査を効率的に実施する。授業評価については、科目別に授業評価アンケートを実施し、さらに授業改善等に関する報告書を実施することで、講師が学生から指摘・要望が多かった事項に対する対応策を記載し、校長へ報告する取り組みをスタートした。また、学生からの指摘・要望に対する対応・回答、授業方針については次年度の授業初回で学生にアナウンスすることで、講師自身が授業の励みとするとともに、授業の改善に活かしている。オンラインでの授業評価アンケートを行うことで、ペーパーレス化を継続する。

3. FD・SD

教育研究目標を達成し、教育の質の維持と向上を図るために、教員の教育力向上及び職員の能力・資質向上に努める。その手段として、組織的に授業の内容及び教育方法の改善を総合的に図るための研修及び研究を実施し、その活動状況を自己点検・評価報告書としてまとめ、公表する。

4. 学生サービス

(1)学生相談

クラスアドバイザー（担任）、アシスタントアドバイザー（副担任）によるホームルームの時間を設けて、学生の教育・学生生活の相談に対応するほか、必要に応じて保護者と連携し、スクールカウンセラーを紹介する。また配慮の必要な学生については、教務委員会や各実習対応者も含め、連携して対応する。

(2)高等教育段階の教育費負担軽減制度への対応

支援対象となる大学等の要件（機関要件）に対応している。シラバスの公表、GPAによる成績評価に係る客観的な指標の設定・公表、卒業の認定に関する方針の策定・公表を実施する。

5. 広報活動の強化

(1)安定的な入学者の確保

18歳人口が減少する中、募集定員の充足は最重要課題であり、本校の特色を広く広報す

るため、一層の努力と工夫が求められる。本校は入試広報課を中心とし、高等学校への訪問、進路ガイダンスへの参画、ホームページや SNS による情報発信、進学情報サイトの充実、オープンキャンパス内容の改善、受験生の進学志向の変化や競合他校の分析、志願方法・入学試験の実施方法などを総合的に検証し、同分野他校との差別化を図り、広報活動を実施する。

(2) 令和 8 年度学生募集

高校訪問、進路ガイダンス、オープンキャンパスに全教職員が協力し本校の特化した強みを明確に打ち出したアプローチを強化する。

さらにオープンキャンパスでは、教員や在校生を効果的に活用し、実習体験や模擬授業等を通じた参加満足度を向上させ、他校との差別化をより一層明確化することに重点を置く。

また社会人の受け入れを拡大すべく、学び直しに関する情報をホームページやウェブ広告を活用して発信し、オンライン型の説明会や個別相談の充実を図っていく。

6. 退学者の低減

退学率の低減については、クラスアドバイザー・アシスタントアドバイザー及び学年主任を中心として個人相談等様々な努力を行っている。令和 7 年度においては退学率が前年度に比べ増加傾向にある。今後も各学年において過去の平均退学率を下回ることを目標とし、退学率低減を目指す。

7. 自己点検評価と学校関係者評価

自己点検評価に関しては、「専修学校における学校評価ガイドライン（文部科学省生涯学習政策局）」に基づき当校教職員全体で実施しており、適切な評価に達していない評価項目に関しては次年度以降の改善課題として取り組んでいる。

学校関係者評価に関しては年 1 回以上実施し、学校関係者評価委員会より評価内容を校長に報告する。委員より聴取した意見は教務委員会にて検討し、教育課程に反映する。その結果を同委員会に報告するという PDCA のサイクルを回すことで、教育の充実を図る。

令和 6 年度に第三者評価を受審した経験を踏まえて、今後もより一層の質の向上を図る。

8. 地域連携等

渋谷区と「災害時における帰宅困難者支援に関する協定書」を締結しており、体育館であるレインボーホールは災害時の帰宅困難者支援施設として利用される。

○重点目標・計画の達成状況

① 学生の受け入れ

ア. 入学者の受け入れ方針と方法

愛玩動物看護学科の養成する人材像に基づき、以下のアドミッション・ポリシーを掲げ、総合型選抜試験、学校推薦型選抜試験（指定校制・公募制）、一般選抜試験、社会人選抜試験により選抜を実施し、人と動物の架け橋となる者を受け入れた。

1. 本校の建学の精神及び教育理念に共感する者。
2. 動物に深い理解と愛情を持ち、人と動物の豊かな共生社会を目指す者。

3. 動物看護学に興味を持ち、専門知識と技術を学ぶための基礎学力を有する者。
4. 愛玩動物看護師を目指し、広い視野に立ち、コミュニケーションを大切にする者。

イ. 学修支援

全ての合格者を対象に入学前教育として入学前ドリルを配布し、高校までの学修の復習を行い、入学後提出させ添削を行うことで、入学前の学修意欲の向上ならびに家庭学習の定着を図った。

在校生を対象に愛玩動物看護師国家試験の合格率向上のため、段階的な対策を講じた。1年次は基礎学力の定着を目標とし、授業内小テストや模擬試験を実施し、不得意分野を特定して克服できるようにした。2年次では専門分野の学修を深めると共に、定期的な模擬試験を実施し、1年次に引き続き不得意分野の克服に努めた。また、「アッセンブリーアワー」にて動物関連の資格と現状について説明の時間を設け、情報発信を行った。3年次では定期的な模擬試験の実施の他、対策講座の設置やオンラインでの教材提供など、学内だけでなく家庭での学習指導体制を整えた。また、試験対策の掲示板を設置し全学年へ情報を提供すると共に、アッセンブリーアワーにて動物関連の資格と現状について説明の時間を設け、情報発信を行った。その結果、愛玩動物看護師国家試験の在学者合格率は91.5%となった。

ウ. 特待生制度・奨学金制度・教育支援金制度

本校では、教育・学生生活のサポートとして独自の特待生制度及び山崎良壽記念奨学金制度を設け、成績優秀者や災害被災学生及び家計急変者等に奨学金を給付している。本年度の特待生制度は31名、山崎良壽記念奨学金制度は4名が該当した。また、日本学生支援機構の奨学金の紹介をした。

エ. キャリア支援

きめ細かい学生支援をモットーとして、多様化する学生の気質や職業観に対応できるよう、学生の立場に立って相談・指導を実施した。目標としている就職率は、全卒業生に対しては80%以上、就職希望者に対しては95%以上に定めている。その結果、本年度は、全卒業生に対し91%、就職希望者に対し98%という高い実績を継続達成できた。なお、文部科学省の「就職率」の取り扱いについての通知に従い、進学、自営業、家事手伝い、資格取得等の数値は含めていない。

オ. 教育環境の再整備

教育環境整備として、動物看護の実習で用いるイヌの採尿カテーテルトレーニング模型及び掃除機2台を新たに購入し、教育環境の向上及び環境整備を図りました。

渋谷キャンパス2号館の経年劣化している学習環境インフラについて、年次計画で改善を図っており、令和7年度は渋谷キャンパス2号館A棟3・7階学生トイレの改修及び近年のゲリラ豪雨対策として、止水板を設置した。

② 教育課程

ア. カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーに沿った教育課程

動物看護を中心に幅広い知識と技術を身に付けた即戦力をもつ人材の養成に努めた。

カリキュラム・ポリシーは、以下の通りである。

ディプロマ・ポリシーを教育課程に反映させるため教養教育科目、専門基礎科目、専門科目（選択科目を含む）の3科目群からカリキュラムを構成する。

1. 教養教育科目では、愛玩動物看護師に必要な教養を俯瞰的に学び、社会的自立を図るために必要な能力を養う。
2. 専門基礎科目では、動物看護学の基礎的知識と技術を学び、愛玩動物看護師に必要な能力を養う。
3. 専門科目では、動物愛護・福祉に基づいた動物看護、検査、グルーミング、トレーニング等の専門的知識と技術を養う。

ディプロマ・ポリシーは次の通りである。

修業年限以上在籍し、所定の時間数を修了した学生に対して、卒業を認定し動物管理専門課程の専門士（文化・教養専門課程）の称号を授与する。

1. 本校の建学の精神及び教育理念を理解し、人と動物の架け橋となる愛玩動物看護師としての使命感を有する。
2. 動物看護学の基礎的・応用的知識と技術を身につけている。
3. 人と動物の共生社会において必要なコミュニケーション能力を身につけている。
4. 動物愛護・福祉に基づいた動物の適正飼養の普及及び公衆衛生に貢献する能力を身につけている。

また、教育課程編成委員会を年2回開催し、同委員会において聴取した意見を教務委員会で検討の上、校長が教育課程に反映した。同委員会の結果は同委員会に報告され、PDCAのサイクルを構築し、教育課程の充実を図った。

イ. カリキュラム

令和元年6月に愛玩動物看護師法が制定されたことに伴い、愛玩動物看護師国家試験に対応するカリキュラムを採用している。愛玩動物看護学科のカリキュラムについては、主務省が指定する「大学及び養成所において履修すべき科目」に基づき、愛玩動物看護師の養成に必要な科目に対応した教育を行った。

ウ. 成績評価と授業評価

成績評価については、GPA（Grade Point Average）による厳格な成績管理を導入しており、修学度等の調査を効率的に実施した。授業評価については、科目別に授業評価アンケートを実施し、講師自身が授業の励みとすると共に、授業の改善に活かした。実施方法については、オンラインでの授業評価アンケートとし、ペーパーレス化を図った。

③ 職業実践専門課程

職業実践専門課程は専修学校の専門課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について

組織的な教育を行うため、文部科学大臣が認定し職業教育の水準の維持向上を図ることを目的としている。本校は愛玩動物看護学科を職業実践専門課程として申請し、文部科学大臣より令和7年3月24日に認定を受けた認定校である。

④ FD・SD

教育研究目標を達成し、教育の質の維持と向上を図るために、教員の教育力向上及び職員の能力・資質向上に努めた。その手段として、組織的に授業の内容及び教育方法の改善を総合的に図るための研修及び研究を実施し、その活動状況を自己点検評価報告書としてまとめ、公表した。

⑤ 学生サービス

ア. 学生相談

クラスアドバイザー、アシスタントアドバイザーによるホームルームの時間を設けて、学生の教育・学生生活の相談に対応すると共に、必要に応じて行う保護者との面談方法も対面のみならずオンラインでの面談の機会を保証することで、保護者との連携も欠かさずことなく学生支援を行った。また、配慮の必要な学生については、学生委員会や各実習対応者も含め連携して対応した。さらに、必要に応じて、スクールカウンセラーを紹介した。

イ. 高等教育段階の教育費負担軽減制度への対応

支援対象となる大学等の要件（機関要件）に対応し、シラバスの公表、GPAによる成績評価に係る客観的な指標の設定・公表、卒業の認定に関する方針の策定・公表を実施した。

⑥ 広報活動の強化

ア. 安定的な入学者の確保

東京都内で国家資格愛玩動物看護師養成所となっている専門学校10校13学科の中で、本校の特色を多くの出願検討者に認知してもらえる機会を与えるため、年間で14回の来校型のオープンキャンパスと6回の来校型およびオンライン型の学校説明会を実施した。

18歳人口の減少という課題に対し、高校生という従来の層にとらわれず、大学生や社会人などターゲットを広く設定したりカレント教育の広報を展開している。

イ. 令和8年度学生募集

令和8年度学生募集では、参加者の多様なニーズに応えるため、従来のオープンキャンパスに加え、「社会人対象説明会」や「入試対策説明会」、さらに教育内容への理解を深める「講義科目セミナー」を開催し、質の高い志望者の掘り起こしに注力した。また、WEB広告やSNS広告を活用し新規獲得に努めた結果、入学者数に占める高校既卒者の割合は25%を超え、一都三県以外の入学者数比率は15%あり、東北地方、中部地方、沖縄県からの入学があった。志願者の確保に努めたものの、最終的な入学者数は114名（定員充足率95%）に留まった。この結果を真摯に受け止め、次年度はさらなる志望精度の向上と、歩留まり対策の強化を図る。

⑦ 退学者の低減

退学率の低減についてはクラスアドバイザー、アシスタントアドバイザー及び学年主任を中心として個人相談など様々な努力を行ったが、令和7年度の退学率は11.4%となり、昨年より2.5ポイント増となった。退学理由は、学力不足によるものが3割、進路変更が2.6割を占めた。健康上の理由は、けがによるもの1名以外は全て心の不調であった。このことを踏まえ、従来行っているスクールカウンセラーや家庭との連携を取ることに加え、早期退学を防ぐために、入学前の登校日においてレクリエーションを取り入れ、早期から友人を作れる環境づくりや入学前ドリルによる基礎学力向上に向けた取り組みを導入している。今後も引き続き、人間関係構築や基礎学力の向上についての取り組みを続けていくことで、各学年において過去の平均退学率を下回ることを目標とし、退学率低減を目指すことが引き続きの課題である。

⑧ 自己点検評価と学校関係者評価

自己点検評価に関しては、「専修学校における学校評価ガイドライン（文部科学省生涯学習政策局）」に基づき当校教職員全体で実施し、適切な評価に達していない評価項目に関しては次年度以降の改善課題として取り組んだ。

学校関係者評価に関しては学校関係者評価委員会を年1回実施し、その評価内容を校長に報告した。委員より聴取した意見は教務委員会にて検討し、教育課程に反映し、結果を同委員会に報告するというPDCAのサイクルを構築し、教育の質の向上に努めた。

また、特定非営利活動法人職業教育評価機構による第三者評価を受審し、全ての基準について「可」の評価を頂いた。

⑨ 地域連携等・ボランティア

社会貢献として、地元自治体である渋谷区と災害時の帰宅困難者や避難所のペット支援に関する協定を結んでいる。3年次の学生が、渋谷区と防災協定を結んでいる「こくみん共済coop」、「渋谷未来デザイン」、「渋谷区観光協会」の3社が主催している「もしもフェス渋谷」に参加する他、ボランティアクラブが公益社団法人 日本動物福祉協会 新東京支部の保護猫の譲渡活動支援をした。また、区立中学校の上級学校見学授業を受け入れるとともに、高等学校の学校見学会や職業別ガイダンスに参加し、職業教育に協力した。

○課題と解決方策

令和7年度の課題は学生募集と退学率低減である。

学生募集については、令和8年度入学者が114名となり、定員を割れた。入学定員の確保が喫緊の課題である。解決方法として、学園広報部と連携した学生募集を行い、大学・専門職短期大学・専門学校を持つ学校法人としての強みとともに、併設校3校との違いを打ち出すことにより、学園全体での集客効果と専門学校の強みが入学対象者へわかりやすく伝わるよう、ホームページ、学校案内、オープンキャンパス等でアピールする。特に愛玩動物看護師国家試験の合格率は併設校3校で継続してトップ校であり、全国での合格者数についても東日本第一位の実績があるため、強みを生かした広報戦略を打つ。

退学率については、11.4%と昨年より2.5ポイント増となった。1年次での退学率が高く、その理由は、学力不足によるものが3割、進路変更が2.6割を占めた。健康上の理由は、け

がによる1名以外は全て心の不調であった。このことを踏まえ、従来行っている、クラスアドバイザー、アシスタントアドバイザー、学年主任を中心とした個人相談及びスクールカウンセラーや家庭との連携を取ることに加え、早期退学を防ぐために、入学前の登校日においてレクリエーションを取り入れ、早期から友人を作れる環境づくりや入学前ドリルによる基礎学力向上に向けた取り組みを導入している。さらに、令和8年度は年度初めのオリエンテーションにて、スクールカウンセラーからのインフォメーションの時間を加え、学生からの認知度を上げる試みを行う。

また、学生からの様々な意見を学校側が受け止められる「意見箱」を設置しており、学生の要望や意見を真摯に受け止め学校改善を図る。